

＜ もくじ ＞	
1. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ（再掲）	1
2. 第1回、第2回連続講座の概要報告	2
3. 研究会からのお知らせ	4
4. 研究会からの概要報告	5
5. 事務局からのお願い	7

1. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ（再掲）

人生100年時代の幕開けが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なるとは、誰もが想像しなかったでしょう。長寿が当たり前とされていたのに、突然コロナによって、その人生を終わる人も少なくありません。

この講座では、ソーシャルディスタンスを維持しながら良い人間関係を保つには、人生の最終段階を安心して迎えるには、そして愛する人と死に別れた後どう立ち直るかなど、人生の危機的な出来事を乗り越えるためのノウハウが詰まっています。多くの方にご参加いただき、これからの生き方の参考にしていただければ幸いです。

第3回 テーマ：グリーフケア ～哀しみとともに生きる～

日 時：12月18日（土）14:00～16:00

講 師：中村昌子（一般社団法人シニア社会学会運営委員、市川市教育委員会外国語指導員、地域猫活動ボランティア、グリーフ専門士、ペットロス専門士、外国語活動指導員）



グリーフとは、喪失による悲嘆とその悲嘆による身体の反応を言います。狭義では大切な方との死別ですが、コロナ禍の中で仕事の喪失、目標の喪失なども、広義のグリーフと言えます。また、ペットロスは、周りに理解されにくい「公認されないグリーフ」とも言われています。

この講座では、グリーフケアの基礎知識をお伝えし、哀しみを語り合える、分かち合いの場の必要性を実践の場から共有させていただきます。

第1回、第2回は終了いたしました。

- 1) 開催方法：Zoomによるオンライン開催
- 2) 参加費：参加回数にかかわらず一律1,000円
- 3) 申込方法：Peatixによる申し込み、あるいは、シニア社会学会口座への振込
- 4) 締め切り：12月17日（金）

※ Peatix でのお申込の場合：申込方法はHP掲載のチラシに詳細を記載してあります。説明をよく読んでお申し込み下さい。

初めて Peatix を使われる方は、Peatix (<https://jaas.peatix.com/>) にアクセスし、右上の「ログイン/新規登録」からアカウントの登録をしてください（メールアドレスとパスワードを入力します）。パスワード設定には4つの条件（①アルファベット小文字と大文字を含める、②算用数字を入れる、③#、%などの記号を入れる、④計8文字以上とする）、のすべてを満たしてください。また、Twitter/Facebook/Google/Apple アカウントをお持ちの方は、い

ずれかからでもログインできます。

※ シニア社会学会口座への振込みの場合：

振込口座：

郵便振替：口座番号 00110-2-123821 口座名：シニア社会学会

銀行振込：みずほ銀行 渋谷支店 普通口座 1322265

口座名：一般社団法人シニア社会学会

振込後シニア社会学会 e メール jaas@circus.ocn.ne.jp に申し込んだ旨ご連絡ください。

2. 第1回、第2回連続講座の概要報告

(1) 第1回連続講座 平井葉子「心に届く言葉～伝わるコミュニケーションの大切さ～」の報告

1) 日 時：10月13日(水) 14:00～16:00

2) 開催方法：オンライン開催

3) 講 師：平井葉子(当学会理事、フリーアナウンサー、一般財団法人健康・生きがい開発財団認定健康生きがいづくりアドバイザー、新潟県生涯学習協会総務委員)



4) 概 要：参加者は、22名でした。コロナ禍においてオンライン・コミュニケーションが普及したり、ICTの活用が一般的になっている現代社会において、相手の心に届く話し方について悩みを抱えたり、工夫を求められる場面は多くなっています。見えない相手に対して自らの思いを明瞭に伝えることに心を砕いてこられた平井葉子さんは、ラジオのアナウンサー歴の長いベテランです。当日は、ご自身の長年の体験をもとに、6つのポイントについてわかりやすく解説されました。

①伝える=伝わる

- ・ 伝えたい相手は自分と同じではなく、伝わるとはならない事を自覚する。
- ・ 伝えられる言葉の数を沢山ためておき、同じ意味合いの文の数も増やす努力を。
- ・ 伝える相手によって、伝わる言葉と文を選んで使う。

②見えない相手に伝える

- ・ 自分の目の前にある事、自分が解っている事、そのまま表現するのはとても難しく、なかなか相手に伝わらない。
- ・ たとえ同じ業種、分野であっても今の社会は専門知識に特化しているから、相手は何もわからないが前提で伝えなければ伝わらない。
- ・ 相手が見えない事を、見えるように理解できる言葉で話す。

③伝わる言葉

- ・ 誰にでもわかる簡単な言葉を使う。
- ・ 自分がわかる言葉で伝えようとした時、相手の理解度がどうか考えて発する。

④理解してもらえる言葉

- ・ 外来語、カタカナ語も日本語に変換してみる。
- ・ 文節をできるだけ短くする。
- ・ 早口にならなすぎないように、相手が理解する間をおいて話す。

⑤伝わる声

- ・ 自分の地声が一番伝わる。
- ・ 作って発する声は伝わりにくい。
- ・ 作った声は、言葉以外の意味も合わせもって伝わってしまう。

⑥心に届けられる言葉へ

- ・ 相手の気持ちを自分に置き換えて言葉にする。
- ・ どんな場面でもプラスの言葉からで、マイナスな言葉から始めない。

・ プラスの言葉はプラスを呼んで相手の心に真っすぐに届けられる。

講演のあとで、参加者は5つのグループに分かれてグループ討論を行いました。社会情報研究会のメンバーや運営委員に、各グループのリーダーとしてご協力をいただきました。それぞれの経験の中で日頃感じていることや苦勞しておられることなど、さまざまな意見交換がなされ、有意義な時間となりました。終了後のアンケートには、以下のようなご意見が寄せられました。

*言葉の表現、アナウンサーというお仕事乍ら聞く方にとっても、疲れることなく聴講できました。パワーポイントを使用せず、言葉だけででしたが楽しく拝聴出来ました。

*情報（コミュニケーション）環境がアナログからデジタル&ネット化へのシフトが進む今日この頃ですが、「伝える（発信）、伝わる（受信）」への原則については常に思いを深めることが大事であることをあらためて気付かされた講演でした。いつの時代にも人と人との関係やお互いの理解を良好にするために、誤解のないコミュニケーションを心がけることには十分な注意を払う必要があると再認識しました。

*ラジオというメディアの世界で声（話し言葉）を介して伝えるというお仕事に携わっていた経験からの貴重な提言は、個人個人の日常にも多くの示唆をいただきました。お互いに心地よいコミュニケーションとなるように心がけたいと思いました。滑舌と同時に“地声”を大事にする、というご指摘も興味深くお聞きしました。

(2) 第2回連続講座 川村匡由「全国初“終活互助”～住まい編～」

1) 日 時：2021年11月13日（土） 14:00～16:00

2) 開催方法：オンライン開催

3) 講 師：川村匡由（当学会理事、武蔵野大学名誉教授、行政書士有資格、福祉デザイン研究所（任意団体）所長、地域サロン「ぷらっと」主宰、山岳紀行家（元日本山岳会員）



4) 概 要：第2回の連続講座は、当学会理事の川村匡由さんの「終活互助」についてのお話を伺いました。本年3月14日の第6回研究会合同シンポジウム「在宅で看取る・看取られるために」～全国初の“終活互助”へのチャレンジ！～において総論的にお話された内容を、各論的に、より具体的に「住まいをめぐる問題」に絞ってお話いただきました。人が必ず迎える死が個人化された現代社会では、誰にも看取られることなくひっそりと一人で死を迎えることも珍しくなくなっています。長寿時代になって、自らの死を考える時期はますます遅くなる傾向がある中で、40代からその準備を始めてきたという川村さんは、ご自身の経験とこれまでの実践活動を紹介され、現在は自ら生活拠点を自宅、サロン、別荘と3か所を活用し、最終的にはそれらの施設を他の人にシェアしてもらいながらともに楽しみながら生活して、お互いに看取り看取られるまでの計画をお持ちだということです。さらに介護施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅などについてもご自身で生活体験されて、注意点を解説され、その結果としてご自身の計画に行きついたとのこと。袖井会長からは、家の寿命より人の寿命が延びたことで家の管理が困難になった、どこにいても災害から免れられない、日本では個人に住宅の責任が負わされ公的支援がないなどの点が指摘され、参加者からは、川村さんのエネルギーの大きさに驚きの声が上がるとともに、高齢期に抱える問題についての知恵と情報の共有の必要性、親の残した別荘地や家の管理などに手を焼いている人も多いがどうしたらよいかなどの質問が寄せられました。

以下、アンケートに寄せられた回答から、いくつかをご紹介します。

*川村先生のアグレッシブな行動のエネルギーにはいつも感心ばかりさせられます。でも、やはり同じようには自分にはできないなと感じてしまいます。鍛え方が違うのでしょうか？ 一度、地域サロン「ぷらっと」にお伺いしたいなと思っています。

*高度成長時代を駆け抜けて来た、私たちの世代は、40代から終活を見据えて、色々準備することはなかなか出来なかったなあーと感じた。また、参加者の実体験と、自らの両親の介護を重ね

合わせて、反省することも多く、「老いるということ」「家族の介護」「終活互助」など、身に詰まされるテーマだが、今後も能動的に関わっていかなければならないと感じた。

*お金も才覚もエネルギーもない弱者の終の棲家はどうしたらよいのか？ 公助はどうなっているのか？ 考えさせられました。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第25回「社会情報」研究会開催のお知らせ(再掲)

1) 日 時：2021年11月24日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom開催

3) 概 要：

「コロナ禍でICT活用が加速、社会を変える」総括あるいは「AIと情報処理」(安田和紘さん)

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第76回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2021年11月25日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「青鞥の女性たち/平塚らいてうと伊藤野枝を中心に」

参考図書：『美は乱調にあり』(瀬戸内寂聴著、岩波現代文庫刊)

『諧調は偽りなり 上・下』(瀬戸内寂聴著、岩波現代文庫刊)

4) 発表者：堀江 副武

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します

(3) 第16回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2021年11月28日(日) 13:30~17:00

2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)小会議室

3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ：認知症を楽しく

びしょうざ

劇団 「B笑座」第4回。

「最もへ？な劇団」です。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行います。「朗読」も加わります。認知症を体験することで、認知症に学ぶことで、新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。コロナ禍ということで昼間に行います。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(4) 第27回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2021年11月30日(火曜日) 17:30~19:30

2) 場 所：Zoom開催

3) テーマ

① 「女60歳還暦を迎えて 言いたい放題 やりたい放題」連載を終えて。ジェシカ(寺本眞子)さん

② 研究会活動の今後について意見交換

③ 読書会 前回の続き 第5章「コンタクトレスの時代」~(若井泰樹さん)

THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか | 書籍 | ダイヤモンド社

(diamond.co.jp)

※ 参加ご希望の場合は、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までお気軽に

ご連絡ください。

(5) 第136回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年12月15日（水） 18:00~20:00
- 2) 報告者：川村匡由（武蔵野大学名誉教授）
- 3) テーマ：「日本の社会保障を憂う」
- 4) Zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
*ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(6) 第17回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年12月25日（土） 18:30~20:30
- 2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）第一特別講習室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：生きづらさを考える

びしょうざ

劇団 「B笑座」第5回。

「私にとって 認知症とは」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員募集しています。Zoom の参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第15回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2021年10月24日（日） 13:30~17:00
- 2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）小会議室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：認知症を楽しく

びしょうざ

劇団 「B笑座」第3回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。今回から「朗読」も加わりました。盛り上がる一方です。Zoom 参加者も増えました。今後に活かしたいと思えます。

(2) 第26回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年10月26日（火） 17:30~19:30
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 参加者： 計7名

【前半：薬よもやま話】

和田久子さん（薬剤師歴50年超）

前半は、「あなたにとって薬とはどんなものですか。」と全員に問いかけ、それぞれの薬とのお付き合いについて、薬剤師の立場で所見とアドバイスを述べさせていただきました。

私は大学で極端に言えば「薬は毒である、副作用のない薬はない」と教えられたのでいつも薬は飲まない工夫をしています。大病で入院しているようなときは違いますが、いわゆる生活習慣病と言われているようなものは 家族性のものも含めて、食生活や運動などに気を付け、なるべく薬を飲まない工夫をすることが大切です。また「病は気から」と言われますが、ストレスは受けられないように溜めないように、できるだけ規則正しい生活をするのが一番大切です。健康食品と

薬、健康食品と健康食品の併用については、重複が怖いから、医師や薬剤師に必ず相談してください。薬の蓄積についてはとにかく多めの「コップ1杯以上」の水かぬるま湯で飲むようにすればよいと思います。いつでもどなたでも水分は大目に。

いずれにしても今回参加された全員の方々が、素晴らしい工夫をしておられて感心しました。皆さんと同様私も薬のことや健康についてもっと勉強しようと思いました。家族性糖尿病や高脂血症の方は一病息災と思って、食事に気を付けて、軽い運動や散歩などを続けて下さい。やっぱり薬は毒ですから。

【後半：読書会】

◆THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか | 書籍 | ダイヤモンド社 (diamond.co.jp) 第1章～第4章

(参加者メンバーよりの意見・感想の纏め)

・海外では、様々な場面でフレンドリーな会話が弾むことが多いが、「日本文化」においては、「言葉のキャッチボール」が難しいと感じることが多い。

・90年代以降、「IT化」の進展に伴い、世の中が二極分化も進み、勝ち残ることが困難になった人たちは、将来に希望持てず、内向き志向になり、孤立しやすい結果に繋がっているのでは。

・仕事で地方のショッピングモールとかに行くと、そこは人々が楽しく過ごす「コミュニティ」が形成されており、県外者もやさしく迎え入れてくれていたが、コロナ禍が始まるとそれが“一変”し、県外者には排他的になってしまい残念に感じた。また、家庭内でも「同居」はしていても、「孤独」を感じることもあり、「孤独」の形もいろいろあると感じている。

・教育の現場でも、コロナ禍の影響で学生が「うつ」になりやすくなっていると心配している。また、SNSの世界では、想像と現実が混在する可能性もあって、「自分の価値」を見失ってしまうことを懸念している。

・ハンナ・アーレントの『居場所が無いことが孤独』という定義に、「ロールレスロール」の引用とか、「居場所があっても孤独を感じる」等々、活発な議論が展開され面白かった。

・自分自身も、様々なコミュニティを求めて積極的に活動しているが、家族との時間も大切に、より仲良くすべく努力していきたいと思っている。

・「自分と他人の希望を調整し、譲歩し、平和的に共存する方法を学ぶことが重要」という著者の言葉に強く共鳴するが、実際行動に移すことはとても大変なことだと感じたが、でもそれを目指すことが最も大切と改めて思った。(若井泰樹 記)

(3) 134回「社会保障」研究会の報告

1) 日時：2021年10月27日(水) 18:00～20:30

2) 報告者：東富弘子(国際医療福祉大学大学院福祉支援工学分野)

3) テーマ：「高齢者の福祉用具利用から見た介護保険制度の課題」

4) 参加者：14名

高齢者の福祉用具利用は、介護保険制度の中で貸与(レンタル)として位置づけられ、利用者は200万人を超えている。しかし、介護保険制度であっても、他のサービスと異なる特徴がある。こうした他サービスと異なる特性・特徴を踏まえて、論点を報告したい。論点は①価格の妥当性、②利用者の状態に合った適切なサービス、③事故一があげられる。なお、報告者(東富)は、貸与は、モノ+専門相談員のサービス(選定からモニタリング)で成立していると考えている。

【介護保険制度の福祉用具】

利用できる福祉用具は13種類で貸与である。貸与になじまない肌に直接触れるポータブルトイレなどは特定福祉用具として販売(購入)が認められている。貸与価格は介護報酬で決められるのではなく、事業者が設定できる自由価格である。そのため同一の機種であっても、事業者によって価格は異なることから、高価格な機種があることが指摘されている。事業者の9割は営利法人(企業)。事業者に義務付けられる指定基準では、福祉用具専門相談員の配置があり、専門相談員

は利用者ごとに選定理由、利用にあたっての注意事項を記載した貸与計画を作成する。2018年からは、厚生労働省は個別の機種ごとに上限価格を設定した。その結果、貸与価格は上限以下に設定され、給付費の抑制につながった。

【今後の検討事項】

厚労省・介護給付費分科会は2021年の報酬改定での審議報告の中で、今後の検討事項として、事故の防止と、福祉用具の貸与と販売の在り方の検討を求めている。報告者(東畠)は貸与には、適切な利用のためのアセスメントや選定、さらに利用後の状況確認(モニタリング)という特性があるが、販売に移行することで、モニタリングができなくなり、結果として事故などの利用者の不利益になることを懸念している。(東畠弘子 記)

(4) 第75回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2021年10月28日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ(1)：『「世間」は日本にしかない』とは？ ～『目くじら社会の人間関係』(佐藤直樹著)他、関連本を読んで～

発表者：大下 勝巳

テーマ(2)：「メール企画“つぶやき『近況便り』”のHPへの掲載について」

提案者：安田 和紘

4) 概 要

対面で行なう例会は、1年1ヵ月ぶりに7名が参加して再開した。発表者の大下さんは、かつて濱口先生が「漱石の『草枕』の冒頭の『智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。』の有名な言葉は世間のことを言っている。」と言われたこと。そして自らは10年程前に『草枕』の舞台になった現地を訪ね歩いたものの『世間』という意識はなかったことから、漱石の「人の世」に強い問題意識を持ち、この度『世間』に関する書物を読むことにより、「世間は日本にしかない。」という言葉が胸に響き、「世間」について調べ、明解な分析と問題提起をされた。日本の文化・歴史、日本人の生き方、外国特に欧米諸国との対比などの中で、日本は「個人」がなく、「世間」と「社会」の二重構造であること。そして「世間体」が行動原理となる日本人が、個人の集合体である社会に生きる欧米諸国の人々との友好関係をどう構築して行くかが課題であるのではと述べられた。

濱口座長はコメントとして、「世間」について、資本主義の観点、ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、アダムスミス「国富論」、デュルケームなどの学問的分野から解説された。

第2テーマは、安田さんから、研究会メンバー間のコミュニケーションを図るために継続実施している「メール企画“つぶやき『近況便り』”」をHPの『村人ブログ』に掲載することにより、より広く知らしめ、新規会員獲得を目指したいとの提案が行われたが、時間不足となり、次回に継続討議することにした。(島村記)

5. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・eメールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

<12月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第268号の発行日は、12月22日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、12月15日(水)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

<JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしているJAAS Newsは、原稿が集まった後、Microsoft Word を用いて編集・レイアウトを行い、皆様にお届けしています。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。

会員の皆様のなかで、Microsoft Word を用いた編集・レイアウトの経験がおありの方に、無償ですがお手伝いをお願いできたらと思っております。

手伝いをしてもいいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp にてご連絡ください。よろしくお願いたします。

<事務所の開室について>

11月、12月については、休室となります。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせします。休室中は、電話・FAX はご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎりeメールでお願いいたします。

会員の皆さまは、今後とも十分な注意を払って慎重にお過ごしいただきますようお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/